



「カルピスソーダ®」の発売

Point

- 1 1969年に東京研究所が完成し、新商品の研究開発を加速させた。
- 2 薄めずにそのまま飲める画期的な商品として乳性炭酸飲料「カルピスソーダ®」を開発し、缶容器入り商品とともにルートセールスを活用した瓶入り商品を発売した。

「フルーツカルピス®」のリニューアルと「カルピコ」の販売

1969(昭和44)年5月、恵比寿工場跡に地上5階地下1階の東京研究所が完成した。研究開発体制はさらに強化され、新しい商品が次々に誕生した。

1971年1月には、「カルピス®」をベースに天然果汁を加えた「オレンジカルピス®」と「グレープカルピス®」を、果汁分を増やした新しい「フルーツカルピス®」にリニューアルした。さらに、家庭内で飲用する希釈用に対して、屋外でも飲用する最初の商品として、果汁入り炭酸飲料「カルピコ^{*1}」シリーズを完成し、1972年4月に中京地区でテスト販売後、1973年2月から全国発売を開始した。

乳性炭酸飲料「カルピスソーダ®」の開発

東京研究所で開発されたなかでも、乳性炭酸飲料「カルピスソーダ®」は特に画期的な商品であった。薄めずそのまま飲める「カルピス®」があれば、ハイキングや旅行など外出の際に便利だという要望は、これまでも取扱店や消費者から多数寄せられていた。

こうした声に答えようと商品の開発に力を入れてきたが、牛乳に含まれるタンパク質をどのように安定させるかが課題であった。これを克服し、屋外用には炭酸飲料として仕上げたほうが需要が大きいとの判断のもとに完成させたのが「カルピスソーダ®」である。

「カルピスソーダ®」は、主カブランド「カルピス®」の名前が入った商品であるため、発売時期や方法を慎重に検討した。当初はカルピス食品工業(株)の特約店ルートでの発売を考えていた。

ところが、伊藤忠商事(株)から、子会社でペプシコーラのフランチャイジーである日本飲料(株)(販売地域:東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)および伊藤忠飲料(株)(販売地域:大阪府、兵庫県)で「カルピスソーダ®」の原液を購入し、“当社の技術指導によりそれを瓶入り商品として販売したい”、さらに同社が働きかけて“全国のペプシコーラボトラーにも取り扱わせたい”という提案を受けた。

当時の屋外飲料は瓶入りが主体で、コーラ飲料のボトラーがそれぞれのフラ



東京研究所(現・アサヒグループ カルピス恵比寿ビル所在地)



「カルピコ」シリーズ(1972年)

*1 「カルピコ」には「カルピス®」は使用されていない。のちに海外で販売される「カルピコ」(CALPICO)とは別商品。

ンチャイズシステムのもとでルートセールスでしのぎを削っていた。ルートセールスは、小売店を巡回方式で商品を販売するため容器の回収が容易だった。瓶入り商品を主体とする中味商品だけの販売が可能で、消費者に割安の飲料を提供できた。また、きめ細かいルートマップが確立され、飲食店やパチンコ店などの業務用にも強かった。

「カルピスソーダ[®]」の発売と販売・生産体制

「カルピスソーダ[®]」は、慎重に検討を重ねた結果、まず1973(昭和48)年4月に缶容器入りを特約店ルートを通して首都圏で限定発売し、続いて同年7月に伊藤忠商事との業務提携を発表した。一方、「カルピスソーダ[®]」の原液については、それまでカルピス社と果汁の取引があり、複数社の缶入り飲料を受託生産していた日本果実工業(株)(山口市)の建物の一部を借用して設備を設置し、専従の従業員を派遣してカルピス社山口工場として生産を行うこととし、12月に同社と生産面での業務提携を行った(日本果実工業の建物は、現在は借用していない)。

翌1974年2月には、伊藤忠商事との業務提携に基づくペプシコーラボトラーへの原液の供給がスタートした。これによって、翌3月からカルピス社の特約店ルートに加えて、ペプシコーラボトラールートでも「カルピスソーダ[®]」の販売が実現した。瓶入り商品はペプシコーラボトラーの専売品とし、缶入り商品は主力を特約店ルートで扱い、その補足的役割をペプシコーラボトラーがもつという形で、全国的に販売することになったのである。

当初、各ボトラーへは山口工場で生産された原液がタンクローリーで配送されたが、1974年10月にカルピス社の相模工場に原液生産設備が完成したため、翌1975年からは相模工場^{*2}で生産した原液が各ボトラーに配送されることになり、山口工場の原液は日本果実工業で生産される「カルピスソーダ[®]」向けのみとなった。



「カルピスソーダ[®]」缶250ml(1973年)



ペプシコーラボトラーの専売品として販売した「カルピスソーダ[®]」瓶200ml(1974年)

*2 山口工場はその後、1980年にカルピス社岡山工場の管理下となり山口分工場と改称した。山口分工場^{ひょうご}で生産された原液は、パイプラインで日本果実工業の充填ラインに送られ、缶入り「カルピスソーダ[®]」が生産された。

*「カルピス」はアサヒ飲料株式会社の登録商標です。